政治学Ⅳ

上神 貴佳 教授

代議制民主主義を機能させるために不可欠な制度である選挙制度について論じた。第 2 回〜第 12 回までの毎回の授業後、内容理解を確認するため、授業内容を要約するレポートを課した。また、第 13 回に相当する授業では、授業全体の内容理解を促すためのミニテストを行った。評価配分は、レポート 50%、ミニテスト 50%である。なお、解説はレジュメを参照すること。

◇レポート課題（全 11 回から一部を抜粋）

第 2 回　選挙制度とはなにか I
第 4 回　選挙制度の類型 I
第 6 回　選挙制度の影響 I
第 8 回　J・S・ミル
第 10 回 美濃部達吉

◇ミニテスト（全 20 問から一部を抜粋）

括弧内に適切な語句を記入しなさい。選択肢が示されている場合は、それを選んで記入しなさい。

- 多数制の一種であり、一回目の投票で過半数の票を得た候補者がいない場合、二回目の投票を行うのは（　　　　　　　　　　　）である。
- 混合制の一種である「小選挙区比例代表並立制」は「mixed-member majoritarian, MMM」と「mixed-member proportional, MMP」のどちらに該当するか。いずれかを選んで解答欄に記入しなさい。
- 多数制の一種である「選択投票式 alternative vote system」を用いている国としては、（　　　　　　　　　　　）を挙げられる。
- 日本の参議院では、拘束名簿式比例代表制が導入される以前、都道府県を単位として候補者に投票する選挙区選挙と、政党に投票する全国区選挙が実施されていた。「正」「誤」のいずれかを選んで解答欄に記入しなさい。
- 政党が選挙制度を選ぶ際、大政党は「小選挙区制」、小政党は「比例代表制」を選ぶといわれる。それでは、選挙結果が不確実な場合、政党はどちらを選ぶと考えられるか。いずれかを選んで解答欄に記入しなさい。

以上